８　南薩地域の水田営農確立とニーズに応じた水稲の生産拡大

成果の要約

１　「なつほのか」について現地検討会等で普及推進を図り，面積が前年より増加。また，米不足を受けて「なつほのか」再生二期作の実証に取り組んだ。低コストな再生二期作で高収量が得られ，生産者の「稼ぐ力」向上に繋がった。

２　高温障害対策として，高温登熟耐性を有する「あきの舞」の導入支援を行った。「あきの舞」への関心が高まっており，次年度は新たに複数の生産者が導入する。

３　労働力不足を解決する手段の一つとして，水稲直播栽培の導入支援を行った。直播栽培への意欲が高まっており，次年度は複数の生産者が直播栽培に取り組む意向である。直播栽培の導入及び定着に向け支援を継続する。

１　対象

（１）各市の水稲部会
（JA 南さつま, JA さつま日置, JA いぶすき）
（２）川辺地域集落営農組織連絡会 9 組織

２　課題を取り上げた理由

（１）高温登熟耐性を持つ早期水稲品種「なつほのか」は，近年の登熟期間の高温に対応しており，品質が優れるため，品種の切り替えが必要である。
　普通期水稲においては，「ヒノヒカリ」が高温に弱く，高温障害によって品質が低下している。高温登熟耐性を有する新品種「あきの舞」導入を図る必要がある。

（２）高齢化により，担い手に土地が集約されている。規模拡大に対応するため，水稲直播導入による省力化を図る必要がある。

３　活動の内容及び成果

（１）　高温登熟耐性品種の生産強化支援

ア　「なつほのか」の生産拡大支援

　5 月，7 月に，高温登熟耐性を有する多収品種「なつほのか」の実証ほを活用した現地検討会を実施。品種の特徴，水管理等を指導し，いもち病の本田防除を推進した。本年も夏の暑さが厳しく，「コシヒカリ」では高温障害による一等米比率低下が問題となっていたが，高温に強い「なつほのか」は一等米比率を高く維持していた。生産者の「なつほのか」への理解が深まっており，次年度も「なつほのか」の作付面積が増加する見込みである。

　また，令和６年以降，米不足によって主食用米の需要が高まり，稲刈り後の株を収穫する再生二期作の関心が高まった。そこで，南さつま市大浦潟干拓において「なつほのか」再生二期作の実証活動に取り組んだ。

　再生二期作とは，収穫した稲株から再生した稲穂を再度収穫する栽培方式で、南薩地域の温暖な気候を活かした低コストな栽培方法である。実証ほでは，収量及び品質向上を目指して，一期作目途中での追肥（二期作目基肥），一期作目収穫時の高刈り，二期作目のカメムシ防除を行った。



写真１　二期作目にむけた追肥

　その結果，二期作目の収量が約 200kg/10a となり，一期作目の収量約 600kg/10a とあわせて約 800kg/10a の収量となった。低コストな再生二期作で収量を確保することができ，生産者の「稼ぐ力」の向上につながった。



写真２　二期作目の「なつほのか」

実証活動にあたっては，展示ほを活用した現地検討会を開催し，地域内外の生産者，関係機関との意見交換等を行った。米価高騰を受けて再生二期作への関心が高まっており，活発な議論が行われた。



写真３　再生二期作現地検討会

イ　「あきの舞」導入支援

普通期水稲においては，主要品種の「ヒノヒカリ」が高温に弱く，高温障害による品質低下が問題となっている。そこで，高温登熟耐性を有する「あきの舞」の導入支援に取り組んだ。９月には川辺町の「あきの舞」圃場で現地検討会を開催し，生産者へ「あきの舞」の高温耐性や，収量性，品種特性等説明した。11 月には「あきの舞」の試食会を開催した。



写真４　「あきの舞」現地検討会



写真５　「あきの舞」試食会

「あきの舞」は食味が良く，収量も「ヒノヒカリ」より約１割程度多かったことから，生産者からの評価は良好であった。生産者の「あきの舞」への関心は高まっており，次年度から新たに複数の生産者が「あきの舞」栽培に取り組むこととなった。

（２） 産地維持のための省力化技術の確立

ア　水稲直播栽培導入支援

水稲直播栽培とは，労働負担が大きい田植えを行わず，種もみを直接ほ場に播種する栽培方法である。本年度は昨年度から直播栽培に取り組む生産者へ継続支援を行うとともに，乾田直播研修会を開催し，メリット・デメリット，栽培管理方法など情報発信を行った。その結果，次年度から新たに複数の生産者が直播栽培に取り組むこととなった。現在，次年度の作付けにむけた支援を行っている。



写真４　乾田直播研修会

水稲直播栽培は年々生産者の関心が高まりつつある。省力的な技術であり，地域の担い手として大規模化を進める生産者や，過疎がすすむ集落の農地維持には有効な技術である。農政普及課として，今後も直播栽培の導入及び定着に向けた支援を行う。

４　今後の課題

（１） 高温耐性を有する中生品種「なつまつり」導入支援

（２） 水稲再生二期作の収量及び品質向上に向けた実証

（３） 水稲直播栽培の導入・定着支援

５　担当した普及職員（〇はチーフ）

〇木村，内門，潟山